



## 鶴の笛 (6)

何だろうと思ってね、いろんな風にくわえていたら、ふっと竹の小さい穴からきれいな音がしたのさ、もう、おなかのすいたのも忘れて、これを吹いていたのさ……。」

「まア、そうでしたの、とてもきれいな音色でびっくりしました。何だか、昔のたのしいころのことがうかんで来て、とても気持がよくなりましたわ。」



## 鶴の笛 (7)

笛の音色があまりきれいなので、おなかのすいた二羽の鶴はいままで食べることばかり考えて、いつもくよくよしていたことが馬鹿々々しくなりました。

自分たちを置いて勝手に飛んでいってしまったたくさんの鶴たちを恨んで、ふたりは毎日ぐちばかりいっていましたが、笛をひろってからは、笛の音色があんま



## 鶴の笛 (8)

りきれいなので、二人はとぼしい  
食べものに満足して、お話しをす  
ることは、たのしかったおもい出  
話や、遠くに行った鶴たちが幸福  
であればいいという話ばかりにな  
りました。

「ねえ、わたしは、笛の音色をき  
いていると、こんなみじめな年ば  
かりじゃなく、いまに、とても豊  
年のつづくいい年も来るような希





## 鶴の笛 (9)

望が出来て、すこしもがっかりしなくなりました。今日はすこし、ちょっと遠くまでお魚をさがして来ますから、時々、その笛を吹いて下さいね。」

お嫁さんの鶴がいました。

「ああいとも、けがをしないように行っておいで。」

お嫁さんの鶴はすぐ飛び立って行きました。しばらくすると、小



## 鶴の笛 (10)

さい沼のところへ来ました。沼の上には時々水しぶきがしています。おや何だろうとねらいをつけて飛びおりと、いままで見たこともないたくさん的小魚が群をなしているところがありました。お嫁さんの鶴は胸がどきどきしてその魚をとりました。

つづく

